

# 所 報

No. 31

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 09526-2-5211

## もくじ

- 改めて「教職員の使命」を考える……………1
- 研修三課の新設について……………2・3
- 研修講座の受講風景と受講者の感想……………4・5
- 研修講座あれこれ……………6
- 教育実践・研究記録募集……………7
- 講演要旨——意欲的な学習態度と教育評価……………8～11
- 心身に障害をもつ子どもの行動異常とその指導……………12

## 改めて「教職員の使命」を考える

佐賀県教育センター所長 平 林 利 夫



いろいろな人々が声を大にして「使命感をもて」ということを言われるが、教職員の使命とは何だろうか。やはりここでわれわれは我が国の将来を考えてみるべきではないだろうか。

世の中はまことに目まぐるしく回転し変化している。今年前半だけでも外国より押しよせる波は、経済面から政治面から国難といえるような事態が次々と起りつつある。そして、そのあおりを受けて国内でも政治経済等の原因から教育界へ、又その内容へと介入し、大波を立てつつある。ここでわれわれ教師が動揺しては、それこそ百年の悔いを残すことになるのではなかろうか。

よく言われる言葉であるが、次の世代を作るのは教育である。日本の繁栄は教育の力によるところが大きかった。しかし、今後もその通りになっていくであろうか。私は3年前に海外派遣で西ドイツのある都市の学校訪問をした。その際、その土地の教育長に私の方からこんな質問をした。「今、日本では青少年の基礎学力低下と非行問題で悩んでいる。貴国ではどうか。」と。その答えは「その問題は世界の問題だ。我が国でもいろいろと研究検討を重ねているところだ。」と返ってきた。

私が特に気になっていたのは、アメリカの状況、ソビエトの状況も聞いてはいたが、文明国

といわれる国々の悩みと、後進国といわれる韓国、台湾に於ける教育との気構えの差についてであった。このままいけば逆転必至と思われる。

さて憂えてばかりではおられないが、次の時代を作るのは結局われわれ教師ではないだろうか。立派な人間性、知的体力的に優れた国民を作り上げるのが教師の役目ではなかろうか。それぞれの国民が各人の能力を十分に育て発揮できるようにすることが、われわれの使命ではなかろうか。

日進月歩というが、現在は時々刻々と変化進歩している時代である。ここでわれわれに要求されるものはやはり研修であろうと思われる。若い時代に修得した通り一遍の知識技術では追いつかなくなっているのではなかろうか。十分に理解し咀嚼したつもりで教壇に立っても子どもたちに共鳴を与え得るであろうか。

講座にお出でになる先生方の感想も異口同音に研修の必要性、新鮮さを求める声ばかりである。

ここでわれわれが謙虚に研修を十分に重ね、自信をもって子どもたちに感動を与えて教育を行えば、この憂いが杞憂に終わるのではなかろうか。私があえて教職員の使命に研修をあげる所以である。先生方の御健闘を祈る。

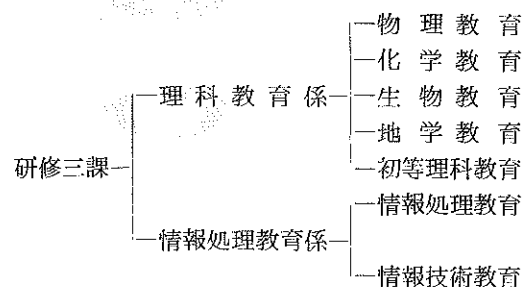
# 研修三課新設

## マシニングセンタ 中型電子計算機・数値制御工作機械導入

走査電子顕微鏡・X線装置・赤外分光光度計・総合気象観測記録計も

### 1. 研修三課の設置

昭和56年度に、図1に示すような鉄筋コンクリート3階建（建物延面積1884㎡）の理科・情報処理教育棟が建設され、昭和57年3月30日佐賀県教育委員会規則第2号によって次のような組織の研修三課が新設された。



### 2. 設備状況

#### (1) 理科教育関係の設備

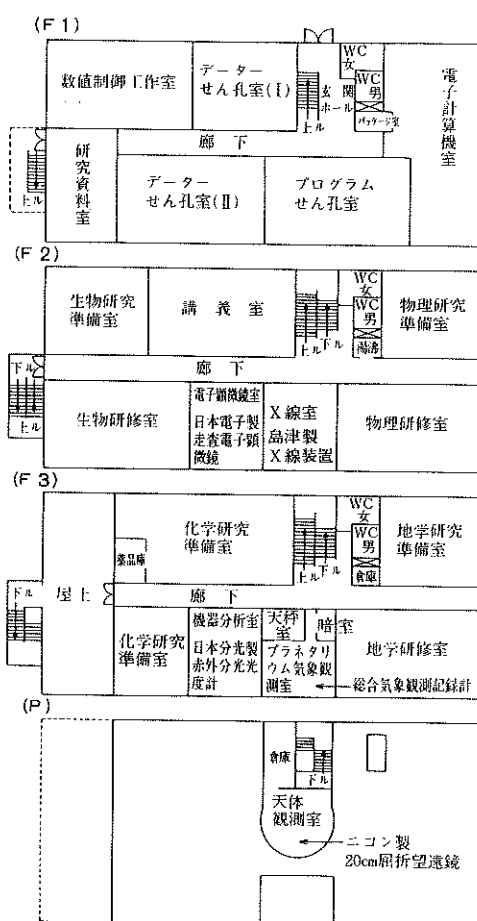
理科教育センター18年の実績並びに理科教育に関する備品が移管された。さらに今年度には走査電子顕微鏡、X線装置、赤外分光光度計、総合気象観測記録装置が設備され、より高度の研修・研究にも供し得る態勢ができた。また、教育センター周辺の恵まれた自然環境を利用して、主として、生物・地学の観察ルートを設定するなど、現場教育に直結するための条件整備も進めている。

#### (2) 情報処理教育関係の設備

情報処理教育に関する研修・研究調査に利用され、また生徒実習にも供し得る設備として、図2に示すような中型電子計算組織（三菱電機製MELCOM-COSMO 700Ⅲ/MP）並びに数値制御フライス盤（豊田工機製FVN40 立形マシニングセンタ）を9月末に搬入し、11月から研

修講座を開講する予定である。

図1 別館（理科・情報処理棟）



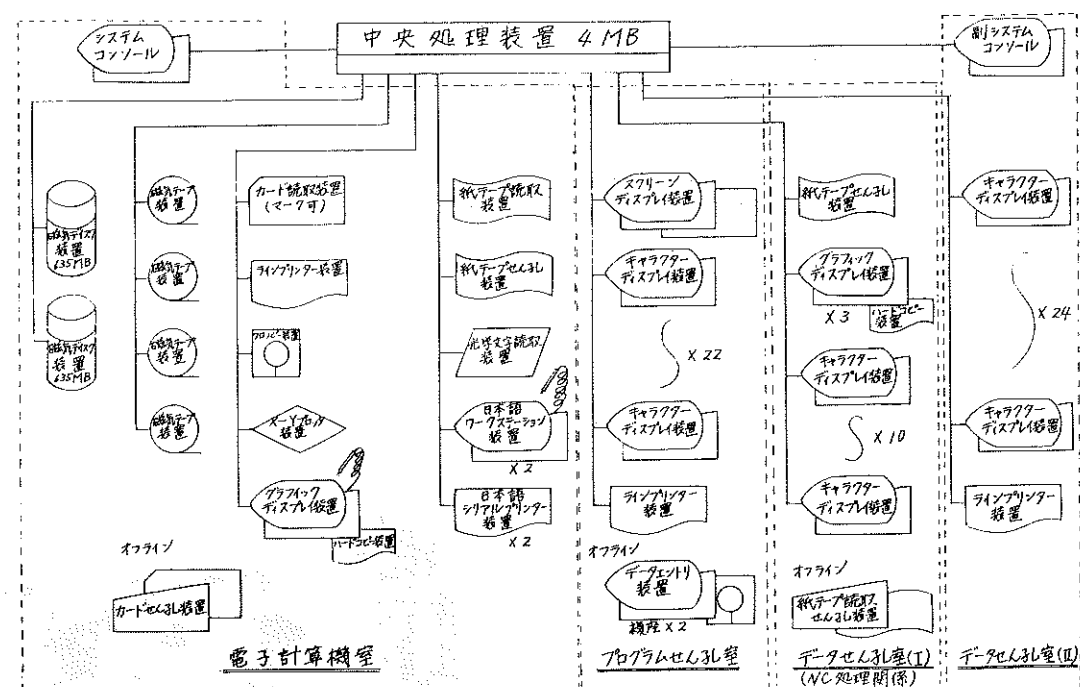
### 3. 研修講座、研究調査等の基本方針

#### (1) 理科教育関係

##### ① 研修講座

本県理科教育の実状を考慮して、先生方が自ら進んで学習指導の研修や教材の研究開発並びに高度な専門的知識技術の

図2. 電子計算組織 (MELCOM-COSMO700Ⅲ/MP)



研修に専念できる場を提供するため、物理・化学・生物・地学等各分野の各種の教材教具、研究室等充実した施設設備を駆使した効果的な講座を実施している。

#### ② 研究調査

全国理科教育研究連盟との研究交流や教育現場との連携を密にしながら、理科教育指導の改善や新教材開発、野外観察ルートの設定など実践的研究調査を行う。その成果については、研修講座の資料とするとともに、教育改善の資料として現場に提供する。

#### (2) 情報処理教育関係

##### ① 研修講座

情報処理教育に関するセンター的機能を発揮して、授業の研究、学習指導法の

研究や高度な専門的知識技術の研修に専念できる講座を計画している。

#### ② 生徒実習

58年度より情報化社会にふさわしいコンピュータマインドの育成を中心として、各分野の情報処理技術の体験学習を計画する。

#### ③ 研究調査

全国の情報処理教育センターとの研究交流や教育現場との連携を密にしながら、情報処理教育に関する実践的研究調査や日進月歩の情報処理技術についての研究を深める。その成果については、研修講座の資料や教育改善の資料として活用する。



## ＝研修講座＝

## 受講風景と受講者の感想

研修講座は、先生が積極的に参加でき、最大限に研修効果をあげるよう、講義・研究発表・研究授業・演習・実験・野外研修など、幅広い、多様な方法で行っています。講座の内容も、現場の教育指对上の課題を踏まえたもので、先生方のアンケート（教科・領域でとりあげてほしいもの）で要望されているものを生かして行っています。

これからも、より一層、創意工夫を加え、役に立つ、充実した研修講座になるよう努力していきたいと思っています。

今年度一期、二期に受講された先生方の感想を二、三紹介してみます。また「教育評価」などの講師として、毎年お願いし、受講者から好評を得ておられる先生（応用教育研究所）より、講師としての立場から感想を頂きましたので紹介します。

## 「小学校国語科講座」に参加して

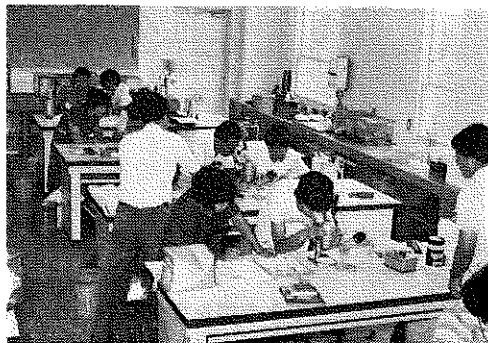
唐津市立佐志小 小宮 尚子

助言の先生の「この指導案は持って帰ってもそのままは使えません。」という言葉が、2年目になると重みをもって伝わってきました。クラスの実態も踏まえ、ただアイデアだけを習いにしがらだった私。確かに多くの経験の中から紹介される実践例は、毎日行きあたりばったりの授業をやっていると、斬新なアイデアを拝借すればうまくいきそうに思えるのですが、その裏側にあるものまでみえず昨年は期待するほどの成果もあげきれませんでした。やはり自分で生みだすべきですね。

今回は、講演や指導案作成の過程の討議や協議の中等で、日頃やっていることが全体の中でどの辺に位置しているのか、この先どんな見通しをもってやっていかなければならないのか、効果的指導をするためにどんな視点が必要なのか等々、少しわかったような気がしました。



講師から実際手をとって指導を受けた書写実技講座

子どものおどろきを教師も体験する顕微鏡観察  
(小学校初級理科講座)

## 「小学校国語科講座」に参加して

嬉野町立嬉野小 淵 正幸

初めて低学年を担当して、作文を書かせはするものの、どのような作文をめざして、どのように書かせるものかと迷っていた。

この教育センター講座「低学年・表現」に参加させていただき、有意義な2日間を過ごすことができたと思う。

とりわけ、1年「よくおもいだしてかかこう」についての指導案作成・説明発表・協議を通して、低学年特有の指導計画のきめ細かき的重要性、子ども一人一人に指導を徹底すること、そして、それを継続することによって、子どもに基本的表現力が身につくことを知った。

子ども達を正しい国語人として育てていくために、理解力はもちろん、これらこの講座で得たものと、先輩諸氏の実践的態度とを学び、教室の授業に生かしていきたい。

ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。

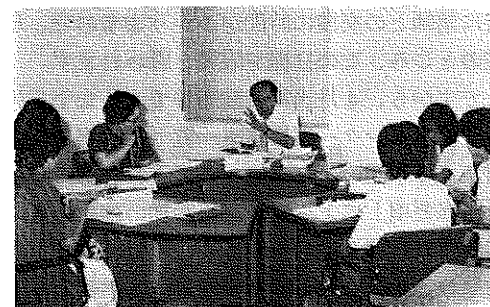
## 「理科教育講座」を受講して

嬉野町立吉田中学校 古賀 正樹

私は、今回初めて、理科講座に参加しました。参加するにあたって、5日間も講義に耐えられるか心配でしたが、受講してよかったと思えることが二つあります。

一つは、理論ばかりでなく、器具の使用法や観察方法を指導していただいたことです。特に天文教材は、まったくのはじめてで、望遠鏡の設置の仕方から、星座の観察まで勉強したことは、今後の学習指導の大きな糧となりました。

もう一つは、宿泊を通じて、いろいろな学校の理科の先生方と話ができたことです。先輩の先生方の実践や指導法を聞かせて頂き、たいへん愉快的な夜を過ごすことができました。



少人数による講師を囲んでのグループ演習

## 「生徒指導・教育相談講座」を受講して

唐津北高等学校 川原 英子

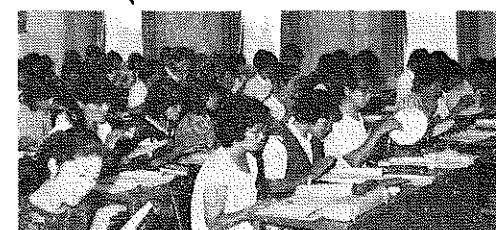
現在、高校において教科指導や生活指導をしていくうえで、いろいろな問題を持った生徒たちをどう理解し対処していくかは重要なことと考え、この講座に参加しました。

4日間の講座でしたが、講義だけでなく、最初の2日間は、グループ体験学習があり、貴重な体験になりました。生徒と面接をする場合、内容が深まり生徒が成長していくような適切な受け答えができるためには、教師自身のこのような訓練も必要なことだと思います。

3日目の事例研究の発表とそれに対する意見は、私たちが直面している問題でもあり、生徒や家族への対応の仕方や、校内の体制作りも大事であることなど参考になることが多くありました。

又、宿泊をして、他校の先生方とも親しくなり、他校のようすを知ることができて私の視野

を広げる良い機会になったと思います。

タンバリン打つ手に心がはずむ  
音楽実技の講座

## 教育評価講座感想

応用教育研究所

知己・親戚に各界の所謂、技術者が多数いる。欲談後皆が異口同音に言う、「何だ、教育は科学じゃないのか（自然・社会・人文科学の中に教育も入っているはずなのに…）」と。総ての教育工学の成果や、心理診断、心理療法等を挙げ懸命に反論するが、彼等は企業内教育等で、とくに此等の事物を利用している（学校現場以上に）し、第一、我が子が今教育を受けている体験から、更に鋭く迫る。

「それだけか」、「うちの子は〇〇なので先生に相談しても…」、「〇〇をのばす方法は無いのか」、とか「塾の〇〇教材学習で、苦手の△△が少しは良くなったのに、先生はアラッそんなのが有るんですか、と言ったきり…」、「予備校を経験した子が、全く違う（授業・テキスト・教材）、どうしてこんなに…」、「添削指導で、弱点と学習法が判り…」。

しかたがないので、「教育とはそんなものじゃない。変らない、いや変ってはいけないものが…。義務教育とは。学校教育とは。教授法とは…」と、例の精神論、建前論となっていく。内心忸怩たる思いと、悔しさである。

「僕等が教育を受けた頃と比べて、進歩が少ないなあ。企業・一般社会は厳しいぞ、そんなに甘かったら…」と。そして最後に「だけど、頼むよ、教育が一番大切だし、日本の資源は教育しかないんだから」と。

上記の事を詳述し、対応を述べる紙数の余裕がないので我田引水の的に一つだけ。自然科学の進歩は、事象・物質の測定・分析に比例している。最近の医療の目覚ましい発展も、診断技術に伴ったものである。教育評価も本質は評定ではなく、理解（先生が、子供が自分自身を……etc）を目的とし、機能させたいものだ。

## 研修講座あれこれ

教育センターが設立されて4年目の57年度も、研修講座の8割が終了してしまいました。

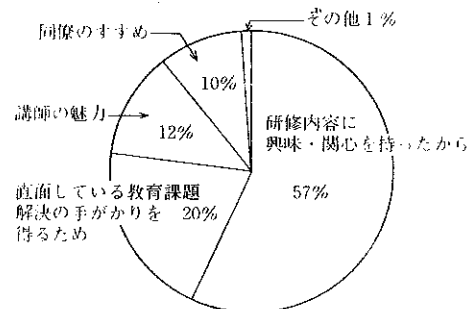
研修講座の基本的な考え、方針、運営の仕方につきましては、要覧や説明会を通し、説明いたしておりますが、細部についての質疑や要望がアンケートに記述されておりますので、それらを要約して、ここで回答いたします。

現場の要望をどのように吸いあげ、研修講座にどう反映させているか。

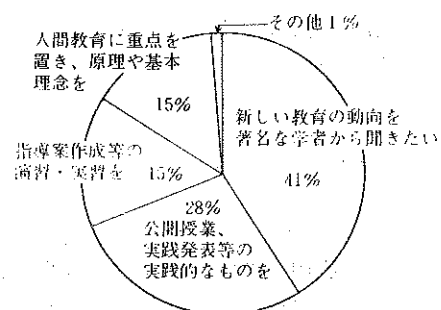
公開講座に参加の先生方に対して、研修講座についての一般的な意見、要望をアンケートにより聴取しております。

今年の7月のものを拾いますと下表の通りです。

### ◎研修講座への参加の動機は



### ◎研修講座の内容に対する希望は



また、各講座毎のアンケートにも、上表の内容をさらに具体化したものが記述されています。つまり、先生方は、教師としての生活に生き

がいを持ち、教師である自己を支えることに役立つ研修を望まれている、と考えられます。

これらのことをふまえ、講座内容の改善をはかり実施してきております。

各期の実施要項が学校にきてから、申し込み期限までの日数が少ないが……。

各担当者は予算内で、より充実した、より多様化した内容の講座づくりに努力していますが、特に講師との交渉に時間がかかりますので、現在のところ、この日程が限界と思われます。

ですから、4月当初に配布しております「佐賀県教育センター研修講座一覧（掲示用、個人用）」で年間の研修計画を立てられ、募集時の「実施要項」によって、研修参加の確認と具体的内容の把握をされますよう、お奨めします。

なお、募集時の「実施要項」は各学校2部ずつ配布していますので、1部は学校控え、他1部は回覧用に御利用ください。

希望した者は全員受講させて欲しい。

いくつかの講座について御迷惑をおかけしました。御希望にそうよう努力しておりますが、申込者が、収容人員をはかるに越した場合、人数の制限をせざるを得ません。次の機会をお待ちください。

なお、決定通知書を確認して、御来所ください。

欠席届等の手続きについて

◎遅刻、欠席→電話→教育センター

欠席届 → 郵送 → 教育センター

◎申込取消し→教教委→教育事務所  
→（県立校）→教育センター

◎宿泊取消し………旅費支給の際に必要なです  
で所定の様式により、御提出ください。

昭和57年度

## 教育実践・研究記録募集

基礎学力の向上を図り、人間性豊かな児童・生徒の育成をめざして、学校教育のそれぞれの分野で学校全体で、グループで、あるいは個人で日ごろ研究・実践を重ねられていることと思います。この貴重な教育実践を整理・検討して論文にまとめ、奮って御応募ください。

### 応募について

#### 1. 応募資格

県内小・中・高等学校及び盲・ろう・養護学校に在職する教職員。

#### 2. 応募要領

- ①個人または学校・グループで自由に応募できます。
- ②実践・研究のテーマは自由ですが、内容は学校教育に関するものとします。ただし、研究委嘱期間における研究は除きます。
- ③実践・研究記録の内容は、他の団体等が主催する懸賞募集等に応募していないものとします。ただし、県内教育団体が主催する事業のものはこの限りではありません。
- ④応募原稿は、横書き 400 字詰原稿用紙50枚以内とします。（写真・図表・資料等も含めて）。
- ⑤応募原稿は返却いたしません。

#### 3. 送付

- ①市町村立学校においては、関係市町村教育委員会できりまとめのうえ、佐賀県教育センターへ送付してください。
- ②県立学校及び上記①以外の学校においては直接佐賀県教育センターへ送付してください。

#### 4. しめ切り

昭和57年12月7日（火）

### 審査・表彰等

1. 選考は、学識経験者及び教育センター所員

で構成する委員会で行い、特にすぐれたものについては、入選作品として記念品を贈り表彰します。

2. 入選者の発表は昭和57年度内に本人あてに通知します。
3. 入選者の表彰は昭和58年度佐賀県教育センター研究発表会において行います。
4. 入選作品は冊子として県内教育関係諸機関各学校に配布し、公表します。
5. 選外になった応募作品全部に記念品を贈ります。

なお、「昭和57年度 教育実践・研究記録の募集要項」を各学校に配布しておりますので、それを御覧ください。

また、応募について御不明の点がありましたら下記へ問い合わせてください。

＜問い合わせ先＞

佐賀県教育センター研修一課教科係  
〒 840-02  
佐賀郡大和町大字川上字西山  
電話 09526-(2)-5211

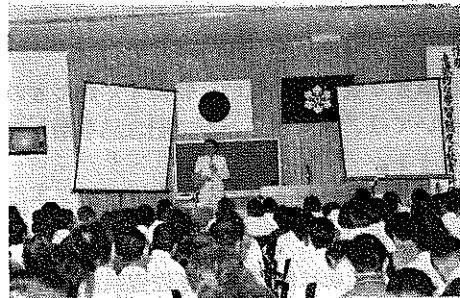
教師のやる気が子供のやる気  
指導に生かそう創意と工夫



## 公開講座講演要旨

## 意欲的な学習態度と教育評価

東京工業大学教授 坂元 昂



(講演される坂元先生)

## ○ 見えても見えないものがある

最初にこの絵を見てください。(ほかした男の絵をみせる) <第一の絵>

答えをおしえます。これが見えていた方はどれくらいでしょうか？(線書きの絵をOHPで見せる) <第二の絵> 20人くらいでしょうか。1割足らずですね。

もう一度よくごらんください。(第一の絵を再び見せる) 人間の顔です。あごひげをはやしている男の絵です。何事もそうですが、細かいところに捉われていると、物事の本質が見えません。

これがかぶせると見えやすい。(第二の絵をOHPのステージの上において第一の絵をかぶせる) 今度はどうですか。

さて、ではなぜこんな絵を私はお見せしたのでしょうか？ いろいろな教訓がこの中から読みとれるはずです。

まず第一の教訓は「見えても見えないものがある。」ということです。見てただけで見えなかった。教材研究をするときにも私たちは、物事を見ても見えないことがしばしばあるわけです。

実は子どもの立場から見たときに、もっとはっきり言えます。

子ども達が先生の説明を聞いたり、あるいはOHPでいろいろなものを見せてもらうときにも見えても見えないものがあるのです。

## ○ 子どものことは、なかなかわからない

第二の教訓は、数分前に初めてこの絵をごらんになったときのことを考えてください。いま見えている人間の顔が、初め、どう見えていたか、というのです。これが第二の教訓です。「本質のわかった人は、本質を捉える前の状態を

理解しがたいものなんだ。」ということです。

言い換えれば、先生はなかなか子どもの心がとらえられない場合がある、ということでしょう。先生側は十分だと思っても、子ども側はどう思っているかわからないということです。そこが教訓の二つ目ということです。

## ○ 教材を出す順序が大切

三つ目の教訓はこういうことです。先ほど二枚の絵(第一の絵、第二の絵)をお見せしました。その絵の内容としては人間、その奥にある人間を表しています。

もし仮に、第二の絵を先に私が出しますと、8〜9割の人が人間に見えるんです。さきほど第一の絵を最初に出したときには1割たらずでした。

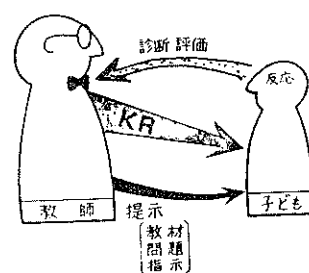
ということは同じ教材でも順序をかえると、課題がむずかしくなったり、易しくなったりします。

こういうように同じ材料でも、並べ方、動かし方を変えることによって課題のむずかしさや子どもの育つ能力が変わってくるということです。

## ○ 授業のしくみ

さて、いままでのことを基本として授業のしくみと授業を改善していく方法を話してみよう。

## (1) 三方向のコミュニケーション



(図1 三方向のコミュニケーション)

の一つになります

この「行って」というコミュニケーションに子どもが発言したり、考えをのべたりする、といった反応をします。

これが「帰って」という二つ目のコミュニケーションになります。

先生がおり、子どもがいる。そのときにまず先生がなされるのは、教材を提示し問題を提起され指示される。これが「行って」というコミュニケーション

この子どもの反応をうけて、先生が診断、評価をし第三のコミュニケーション、「また行く」、通称KRを与えるのです。

## (2) 受容反応と構成反応

受容反応というのは、相手のいうことをわかった気持ちになることで、わかったことを自分の行動に表現するような反応、やっできる反応を構成反応といっています。

例えば、算数の問題で説明をきくとわかっていて。しかし、問題を自分で解く段になるとできない。構成反応にならないというわけです。

## (3) 評価

このようにして、子どもが自分の行動に表現した反応は、目標に照らし合わせて評価ができます。評価には総括的評価、事前的評価、そして形成的評価がありますが、ここで大事なのは形成的評価です。

形成的評価は玉磨きの評価といわれ、玉を磨きます。歪んだ玉、汚れた玉もある、これらをみんな磨いていい玉にしよう、その子の現状を何とかしてあげたい、とするための評価です。

また、この評価の結果は単元末や学期末の評価には加えない。これが形成的評価です。授業にとって一番大切です。

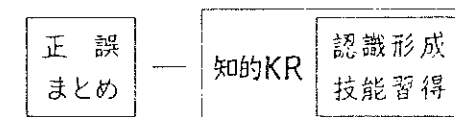
評価の方法は、テストをするだけでなく、机間巡視、発表、ノート等で評価をし、間違っていたら手直しをしてやります。そして子どもが目標に向かって進んで行くように手助けをしてやるのです。ここまですが二方向の情報のやりとりです。

## (4) KR

先生が情報伝達をして子供の反応が行動として返ってくると安心して授業が進められます。

しかし、授業はそれだけではありません。

主体は子どもです。答えはしたけれども、それが正しいか、誤っているかが子どもにわからなければ自信をもって勉強しないし、やる気が



(図2 知的KR)



(図3 情的KR)

起きてきません。そこで第三のコミュニケーションが必要になってきます。

これをKR (Knowledge of Result) といいます。

KRには、その答えが正しいかどうかを確認する知的KRと人間性ややる気を育てるために非常に重要な役割をもつ受容、反復、確認、励まし等の情的KRがあります。技術の習得には知的KRを多く早く出し、認識の学習には情的KRを多くすると効果があります。

## ○ 授業改善の方法

これまでは授業のしくみについて述べてまいりましたが、授業のしくみの改善についての実用的な方法について考えてみましょう。

## (1) 授業の反省

一人ひとりの子どもについて「行って帰ってまた行く」が反省できねばならない。あの子の受容反応、構成反応はどうだったか、といったことがいえなくてはなりません。

もう一つほしいのは、子どもの意見、子どもの立場は先生にはなかなかわからないものなんだ、ということですから、

「どうなんだ。今日の授業わかったか。」とちょっときいてみる。そこからの答えなんかは授業を改善するのに役に立ちます。

## (2) 授業の診断

私たちはたえず授業を診断いたします。「うまくいったかなあ。いかなかったかなあ。」と、診断の方法には図4のようなものがあります。

## ※ 授業記録

まず授業記録が診断の基本です。ビデオによる記録が一番いいですね。撮って後で見ただけで十分です。わりと手軽なのはテープレコーダーで記録する方法です。自分の授業の進め方、くせ、構成反応のとり方などが発見できます。

## ※ 学力テスト

次に学力テストは、子どもにどれだけ力がついているかを調べ、つまづきや誤りを調べてみるために大事なことです。また授業の最後のと

## 1. 授業記録

言語・記号、テープ、フィルム、VTR

## 2. 学力テスト

学力、つまづき、あやまり

## 3. 授業の内容

自由記述、カード、アンケート、線結び式

## 4. 働きかけ

相関分析、時系列分析

(図4 授業の診断)

ここで診断すれば、今日の授業がどうだったか、わかるわけです。

※ 内容分析

第5図は線結び式の内容分析の例です。授業内容について授業終了後直ちに子ども達に意識調査をするものです。他に自由記述式、アンケート方式でも分析できます。

※ 働きかけ

観察者が授業の中での先生の働きかけ（教材提示、発問、評価など）の量と効果について診断するものです。

(3) 授業の処方

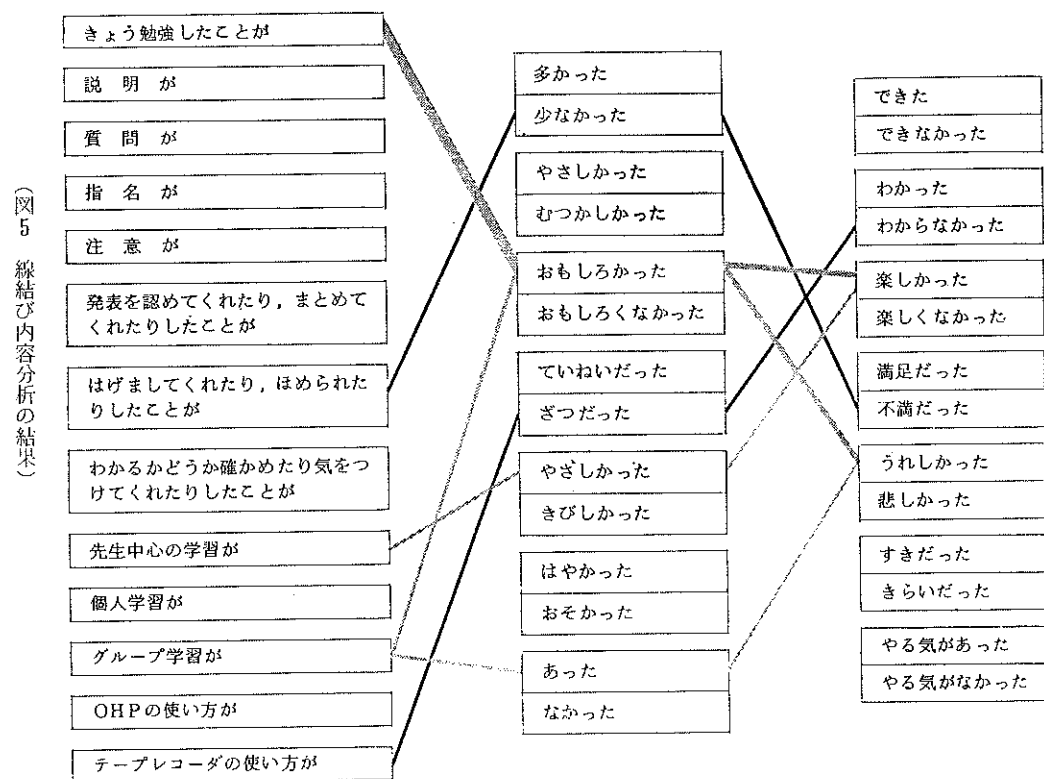
いままで話したのはあくまでも診断です。私たちがほしいのは処方なんです。その処方としていくつか紹介してみます。

※ 授業改善視点表

「あなたの授業でここをこう変えたらどうですか。こういう別の可能性もありますか。」ということを出すための視点表です。（第6図）

※ 学習改善視点表

これは子どもの立場から、子どもに自己評価をさせようではないかというものです。



(図5 線結び内容分析の結果)

(図6 授業の改善視点表)

|      |            | 改善視点 |    |    |    |
|------|------------|------|----|----|----|
| 内容   | 具体化する      | 75   | 50 | 25 | 0  |
|      | 精選する       |      |    | 20 |    |
|      | 目標を明確化する   | 60   |    |    |    |
| 方法   | 説明の量をへらす   |      |    | 40 | 10 |
|      | 口頭に変化をつける  |      | 40 |    |    |
|      | 資料を適切に使う   | 80   |    |    |    |
| 環境   | 板書を精選化する   |      | 50 |    |    |
|      | 空間を明確にする   |      |    | 20 |    |
|      | 考える時間を与える  |      |    | 20 |    |
| 指導   | 指示を徹底させる   |      |    | 20 |    |
|      | 集中させる      |      |    |    |    |
|      | よくみて確認する   |      |    | 10 |    |
| 学習意欲 | 目的KRを適切にする |      |    | 20 |    |
|      | 目的KRを多くする  |      | 50 |    |    |

○ 学習意欲とその開発

(1) 「やる気」の機能は

- ⑦ 行動を起こさせる働き
- ④ 行動を持続させる働き
- ⑨ 行動を方向づける働き
- ⑤ 行動を強める働き

があります。そして、原理的に行動を起こさせるには、要求を生み出し、持続させ、方向づけるには、適度な期待を持たせ、強めるためには、KRを与えます。

(2) 学習意欲の立体構造

図7は「やる気」のある子どものタイプで、ひろげる子、おしだす子、つくる子、つめる子、まもる子、つなげる子、もとめる子、まとめる子の8つのタイプに分けることができます。

(3) やる気を高めるための指導

ひろげる子…いろいろと探しまわり、考える子、活動範囲を拡げていく子。

おしだす子…何でもやってみる子、発表する子、質問に自発的に答える子。

つくる子…計画する子。

つめる子…予習、復習、練習をよくする子、やりとげる子。

まもる子…先生の話をよくきく子、始業時間をまもる子、忘れものをしない子。

つなげる子…みんなとなかよくやる子。

もとめる子…疑問を追求し、探求する子。

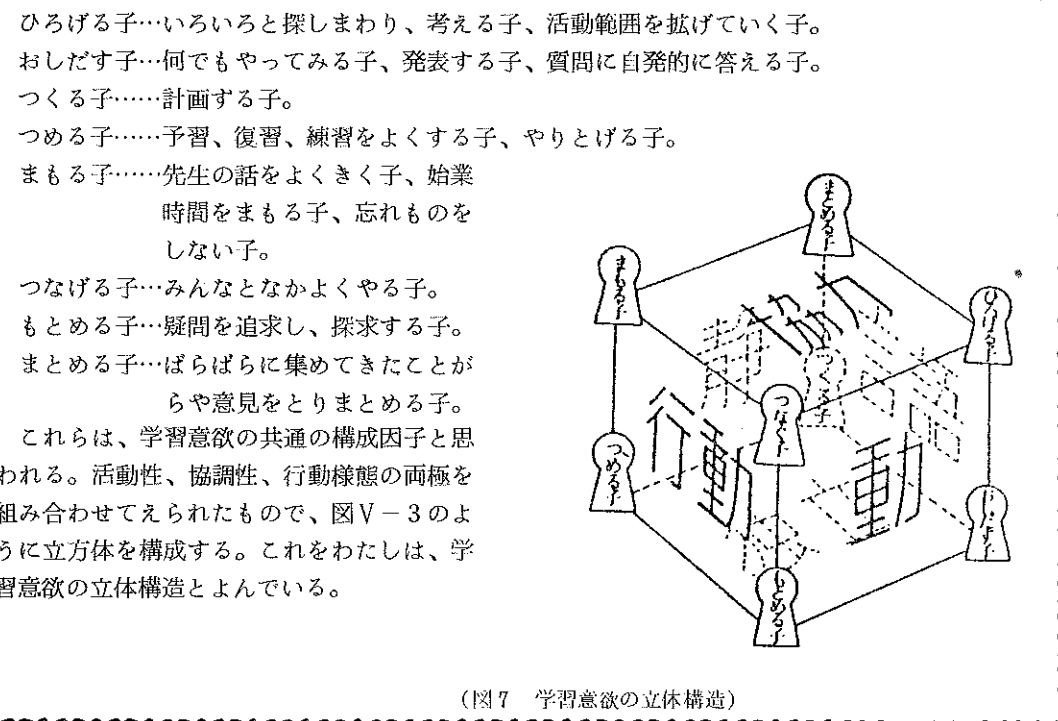
まとめる子…ばらばらに集めてきたことがらや意見をとりまとめる子。

これらは、学習意欲の共通の構成因子と思われる。活動性、協調性、行動様態の両極を組み合わせてえられたもので、図V-3のように立方体を構成する。これをわたしは、学習意欲の立体構造とよんでいる。

それではどうすればやる気を高めることができるのでしょうか、全国の先生方の考えを高い方から並べると、

- ・学習内容を予告する。
- ・目標を段階的に与える。
- ・課題をはっきりする。
- ・内容をわかり易くする。
- ・質問を励ます。
- ・協力をうながす。
- ・学習技術を教える。
- ・努力をほめる。

の順となっています。これを見ますと、子どものやる気を育てるのは情的KRを与えるという面もありますが、本当の勝負は授業の設計であり、授業の設計が子どものやる気を起こしてくれることがわかりますね。



(図7 学習意欲の立体構造)

○ まとめ

話の締めとしてピグマリオン効果にふれてみます。

期待することによって人間をその期待の方向に形作ることをピグマリオン効果といいます。

これを学校にあてはめると、自分をできると思い信頼してくれる教師のもとではその生徒は伸びるし、自分をだめだと思ふ教師のもとではその生徒は実際にだめになってしまうというこ

とが起これと考えられます。

最後にこれまで授業のしくみ、診断、処方、学習意欲の開発等、話してまいりましたが、要は子ども達はどうしてもらったらもっとよくわかると思っているのかを探り、授業を改善していくことが大事なことです。

教育する必要のなくなるために私たちは教育しているわけですから。

# 特 殊 教 育

## 「心身に障害をもつ子どもの行動異常とその指導」

### 基本的な考え方

#### 1. 行動異常児の相談の増加

特殊教育に関する相談といえば、ことばや知恵の遅れを主訴とした就学相談や治療教育が中心であったが、最近、特殊学級や養護学校児童生徒の不応応（異常）行動の相談が増加の傾向にある。56年度の心身障害児の相談は46件で、そのうち約半が異常行動の相談である。

その内容を大別すると、次のようである。

- ① 粗暴、多動、いじめる、たたく、かみつく
- ② 自傷、破壊、パニック、自慰行為、固執  
※（自閉症児にはよく見られる行為）
- ③ 夜尿、失禁、遺尿
- ④ 無気力、我がまま、登校拒否、緘黙
- ⑤ うそをつく、盗みなど

このようにまとめてみると、健常児の情緒障害と呼ばれる問題行動と大変共通点をもっていることに気がつく。しかし、ここで注意したいことは、健常児と違って精神薄弱や肢体不自由などの基本障害を持っている点であり、健常児以上に多面的理解が要求される。

#### 2. 行動異常の原因

佐大山口教授は行動異常の原因として、次のような医学的診断の目やすを指摘されている。

- ① 遺伝性の有無（てんかんなど）
- ② 体質的特性（気分のむらなど）
- ③ 身体的要因として

イ. 器質的変化→胎生期、分娩、ホルモンなどの障害の有無

ロ. 機能的変化→自律神経などの異常、障害児は2次的に行動異常をおこしやすい

- ④ 知能の問題→劣るほど行動異常も多い
- ⑤ 環境の問題

イ. 物理的環境→経済的問題や欠損家庭等

ロ. 心理的環境→対人関係における葛藤

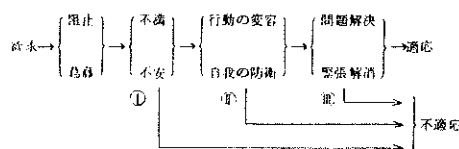
#### 3. 基本的対応

- ① 以上のことから、先ず医学的に異常がないかの診断と治療が第一である。その為には「いつ頃から、どれぐらい、どんなふうに行動異常が続いているのか、日常の観察が重要

である。そして「どんな治療状態か、医師との密な連絡も必要なことである。

② 特に医学的問題がない場合、原因⑤の心理的環境が重要になってくる。障害児は、心身の発達の遅れやハンディのために規制や抑圧を受ける場面も多く、対人関係における不安や不満も生じやすい。一般に不応応行動の心理的メカニズムは下図のように考えるとわかりやすい。

#### 適応と不応応のおこり方



即ち、問題行動は上図で

Iの場面は、不安・不満それに伴う攻撃性などがうっ積して、緊張が続いている状態

IIの場面は、適切でない防衛機制により、現実から一歩後退して悩んでいる状態

IIIの場面は、緊張解消の手段が不適切で、その結果社会的に認められない形をとっている状態といえる。

#### ③ 3つのRと3つの心

障害児の指導の基本はリラックス（解放）ルーティーン（毎日続ける）リピーター（くり返し）の3Rであるといわれるが、私たち教師はくり返し続ける指導は熱心でも「心の解放」を忘れた指導に陥りやすいのではないだろうか。

異常行動に対しても、禁止や制限の幅や方法についても一度考え直してみたい。例えば、水遊びに固執する子に「手を叩く、無視する、のどちらを試みてもうまくいかない時、一緒にやってみようかな」といいたい。

近藤原理氏の「大らかに、細やかに、そして子どもに合わせて」の3つの心は、3つのRと共に障害児教育の根幹であり、教師として大切にしたいものだと思う。

（所員 井手 孝通）